

＝令和4年度上越教育大学上廣道德教育アカデミー研究大会＝
～特別支援教育における道德シンポジウム～

◇日 時：令和4年8月19日（金）9：30～16：40

※Zoomによるリモート研修

◇実施報告

令和4年8月19日（金）にZoomによるリモート研修にて、「令和4年度上越教育大学上廣道德教育アカデミー研究大会～特別支援教育における道德シンポジウム～」を開催しました。

教科化された「特別の教科 道德」（道德科）は、特別支援教育の分野においてもその適切な実施が求められています。しかし、特別支援教育の分野での道德科授業はまだ実践や研究の蓄積が十分ではなく、道德科の授業に対する意識や理解、授業づくりや指導の方法等も、検討の余地があるといえるのではないのでしょうか。

そのため、特に知的障害を伴う子ども達の道德科の充実と推進を図る基盤となる、特別支援教育の教育課程上の道德科の位置づけや役割について適切な理解を深め、授業づくりの方法や工夫、留意点など、子ども達の学びが確かなものになるよう、授業を適切に展開できる教員の資質・能力を養うことを目的に、本大会を設定いたしました。

当日は全国各地から教育関係者を中心に90名のご参加をいただきました。

本大会事務局の岩城 淑樹（上廣道德教育アカデミー研修コーディネーター）司会のもと、本学の林 泰成学長（上廣道德教育アカデミー統括監督者）の挨拶からはじまり、本学早川 裕隆教授（上廣道德教育アカデミー所長）の趣旨説明が行われ、開会しました。



開会式司会 岩城 研修コーディネーター



総合司会 小宮 特任教授



挨拶 林 学長



主旨説明 早川 所長

講演では、本大会事務局長の小宮 健（上廣道徳教育アカデミー特任教授）司会のもと進行され、講演①では本学藤井 和子教授（上越教育大学大学院）を講師として、テーマ「特別支援教育の授業づくりにおける個別の指導計画の位置づけ」と題し、特別支援教育の教育課程についての確認や特別支援教育の教育課程実施上の課題とその背景等についての講演が行われました。

講演②では、吉本 恒幸様（聖徳大学 名誉教授）を講師として、テーマ「特別支援教育における道徳科の在り方と授業づくり」と題し、道徳科の在り方についての講演が行われました。

講演・演習①では、笠井 善亮様（千葉県流山市立東深井中学校 校長）を講師として、テーマ「特別支援学級における道徳科授業づくり～子どもに合わせた授業づくりのポイント～」と題して、特別支援学級における道徳科授業づくりの具体的な授業の実際の紹介があり、個別の支援の工夫についての講演が行われました。

講演・演習②では日置 健児朗様（熊本県立小国支援学校 教諭）を講師として、テーマ「特別支援教育における道徳科の授業づくりの実際と支援の工夫」と題して、特別支援学校における道徳科の授業づくりの紹介や ICT の活用、実践紹介がありました。

シンポジウムでは「特別支援教育における道徳授業の実際」をテーマに、シンポジストとして、上越市立大町小学校 教諭 岩崎 裕様、三条市立大島小学校 校長 桑原 敦子様、教諭 川上 慶子様、教諭 片桐 治様、山口市立小郡中学校 教諭 和田 剛志様を迎え、実践紹介をいただいたり、実際の授業動画をご覧いただきました。また、ICT を活用した授業についても紹介が行われました。

コーディネーターの中島 秀晴特任教授（上越教育大学）からは、教育課程を中心にした討論と、道徳科を正しく理解し、学習指導要領に沿った道徳教育の在り方についてのまとめと、個の実態にあわせた教育課程を編成することの必要性についての助言がされ、同じくコーディネーターの吉本 恒幸様（聖徳大学 名誉教授）からは、道徳科授業の在り方を中心とした討論があり、道徳的諸価値についての理解や自己を見つめることについての意義等についてのまとめと助言が行われました。

今後の道徳科、特別支援教育における道徳授業の益々の充実と推進を図る上で、意識の問題を含め、乗り越えなければならない課題の確認と、実践的理解や意見交流を図る研修の場となりました。